

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書



令和 6 年 12 月 27 日

志摩市議会議長 様

会 派 名	伊勢志摩カンタービレ		代表者氏名	山 川 楠 人	
年 月 日	令和 6 年 11 月 27 日 (水) ～ 11 月 28 日 (木)				
時 間	11 月 27 日 (水) 6 時 00 分 ～ 19 時 30 分 11 月 28 日 (木) 7 時 30 分 ～ 24 時 00 分				
参加者氏名	伊勢志摩カンタービレ	山川 楠人			
	自由クラブ志摩	前田 俊基、井上 幹夫、山下 弘			
	桂 政 会	山本 桂史			
用 務 先	住 所	石川県珠洲市 (すずし)、輪島市、七尾市、羽咋郡志賀町等			
	名 称	珠洲市内の仮設住宅・宝立小中学校避難所等			
目的・内容	目的： 令和 6 年 1 月 1 日に発災した能登半島地震の被災地の確認及び、同年 9 月 21 日から 23 日にかけての豪雨による災害地を確認し、志摩市の地勢に置き換え考える。 内容： 日本海に突き出た能登半島は、逆さまにすると太平洋に面した志摩半島の地形に極めて似た地形であり、産業的な構造も類似した面がある。 今後、必ず起こると考える「南海トラフ大地震」の発災に備え、我々が備えなければならない教訓があると思われる。 漁港、農地、観光地などの地場産業の状況、避難所及び仮設住宅や、ライフライン等の実状を確認してきたい。 場所： 珠洲市内の仮設住宅・宝立小中学校避難所等 他、能登半島一帯				

(現状や事業効果)

以下、令和6年1月1日に発災した能登半島地震の被災から約11か月が経過していることを大前提とする。

- (1) 被災地までの主要幹線道路が未だに片側相互通行であったり、工事中・工事未着工であったりする箇所が多く散見された。



- (2) 能登半島全体において広範囲に隆起したエリア・沈降したエリアが存在している。



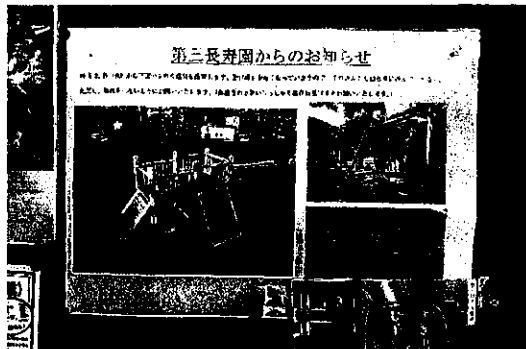
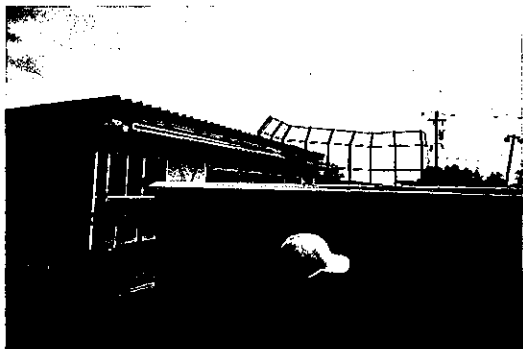
- (3) 集落エリアにて全壊・半壊の家屋が密集しているエリアが存在する中、やっと解体作業が入っている家屋も出てきている。



(4) 様々な仮設住宅群があちこちに設置されている。



(5) 仮設住宅において、物理的な掲示板が情報周知手段となっている。



(6) 仮設住宅や避難所において、統括する本部長の能力が絶対的に重要となった。

(7) ボランティアスタッフの宿舎には、仮設住宅や仮設テントが設置されている。



(8) 広大な廃材等の収集蓄積場所が確保されている。



(9) 若者の能登離れが起こっている可能性がある。

(10) 被災者に国・県の復興計画情報が届いていない可能性がある。

(本市に導入できること)

- (1) 被災後に活躍する重機および操縦者の確保
- (2) 仮設住宅候補地の選定
- (3) より暮らしやすい仮設住宅の選定
- (4) ボランティアスタッフ受け入れ候補地の確保および体制づくり
- (5) 被災者（避難所生活者・仮設住宅入居者・ボランティアスタッフ等）の情報共有手段の構築
- (6) 避難所・仮設住宅の統括者や各種リーダーとなり得る候補者の育成
- (7) 備蓄燃料の確保
- (8) 広大な廃材等の収集蓄積場所候補地の確保

(本市に導入した場合の課題)

- (1) 育成者を育てるための育成者が必要となる。
- (2) 地域間での能力差等は否めないため、防災・減災等の被災後の市民の生活に直結する部分は行政主体が望ましいと考えるが、志摩市の「地域主体」のポリシーとのズレがある。
- (3) 被災後の情報共有に関し、現状の志摩市自体のPR力にすら不安がある。
- (4) 被災後の復興計画を市民に真摯に説明し、納得していただけるか不安がある。

(今後の検討)

現地でのツアー参加において、未だに「被災者」は存在していることを目の当たりにしたため、行政的な対策・対応のみならず、被災者の皆さんの心を少しでも救えるような対策・対応が必要であると感じた。しかしながら、これには相反する部分も存在してくるため、非常に難しい課題と考える。

また、今回のツアーインストラクターは若い女性の方で、被災後に夫婦で被災ツアー事業の会社を起業されたとのことである。このような若い被災者の起業や事業展開を支援する制度等も、被災地の活力に繋がると考える。

復興には、若い世代の力が必須である。

